

はじめに

別府大学文化財研究所企画シリーズ③『大航海時代の日本と金属交易』をお届けいたします。文化財研究所も創立から16年を迎えました。この間、研究所は分析科学・歴史学・考古学・民俗学・美術史・地理学のそれぞれの分野の研究を深化させるとともに、これらの領域を文化財学というかたちで総合化し研究を続けてまいりました。2008年にシリーズ①『経筒が語る中世の世界』、2009年にシリーズ②『キリシタン大名の考古学』を相次いで出版しました。

その後、しばらく時間が空きましたが、今年漸く第三弾として本書を刊行する運びになりました。本書は、シリーズ①②の研究成果を基礎に展開させたもので、2012年3月にまとめた報告書『鉛同位体比法を用いた東アジア世界における金属の流通に関する歴史的研究』（科学研究費補助金 課題番号21200028 新学術領域研究 研究代表平尾良光）をベースにして、報告書には入れられなかった村井章介氏（立正大学）の研究成果を収め、その他研究に加わった方々の成果をコラムなどとして組み入れています。また、新たに黒田明伸氏（東京大学）にもコラムを依頼しました。日本はいかにして大航海時代にいたり、大航海時代のなかでどのような交易を展開したのか、それが日本社会にどのような影響を与えたのか、これらを金属という視点から考察し、新たな問題を提起できたと考えています。

これまでの企画シリーズの①～③は、平尾良光氏（本学客員教授）の鉛同位体比分析という方法を文化財学研究の中に取り込み企画したものです。平尾氏は、2003年4月に本学教授として着任し、昨年2013年3月をもって退職しました。本書は、科学研究費の報告書刊行時から、この成果を限られた研究者だけではなく広く公開したいという考えがあり、2012年には、その準備に入りましたが、原稿の手直し、コラムなどの新原稿の手配、出版社との調整などの諸問題があり、企画から2年以上の歳月が流れてしまいました。本書は、平尾氏の別府大学での10年に亘る研究の総仕上げという側面をもつとともに、その研究に刺激され新たな研究を進めてきた文化財研究所の研究成果でもあります。

これからも、別府大学文化財研究所としては、つねに文化財の原点を見すえ、「ヒトとモノと環境が語る」をテーマに研究所が関係した共同研究企画などを公開し、新しい成果を世に問い続けたいと考えています。なお、本書の刊行に際し、寄稿いただいた諸先生方に対しては衷心より感謝申し上げます。

平成26年9月

下村 智（別府大学文化財研究所長）
飯沼賢司（別府大学文学部長）

はじめに

日本中世に使用された中国銭の謎に挑む……………飯沼賢司	3
——日本中世貨幣論の再検討——	
コラム① 唯‘錫’史観……………黒田明伸	18
——なぜ精銭を供給しつづけられなかったのか——	
15・16世紀海洋アジアの海域交流——琉球を中心に——……………村井章介	21
コラム② 琉球王国のガラスはどこで生産されたのか？ 稗田優生・魯禔玟・平尾良光	46
鉛玉が語る日本の戦国時代における東南アジア交易……………平尾良光	49
コラム③ 16世紀後半のアユタヤ交易と日本……………岡美穂子	72
コラム④ タイソントー鉛鉱山 平尾良光・魯禔玟・土屋将史・ワイヤポット・ボラカノーク	76
鉛の流通と宣教師……………後藤晃一	80
コラム⑤ サンチャゴの鐘……………平尾良光	105
コラム⑥ コンテナ陶磁のもつ意味……………川口洋平	108
金銀山開発をめぐる鉛需要について……………仲野義文	110
江戸時代初期に佐渡金銀鉱山で利用された鉛の産地……………魯禔玟・平尾良光	132
大砲伝来——日本における佛朗機砲の伝播と受容について——……………上野淳也	143
コラム⑦ マニラ沖に沈んだスペイン船サン・ディエゴ号が語るもの 田中和彦	180
資料 戦国時代関連資料の鉛同位体比一覧……………西田京平・平尾良光	185

あとがき
執筆者紹介

凡 例

1. 本書は別府大学文化財研究所が企画するシリーズ「ヒトとモノと環境が語る」の第3冊目の本である。
2. 文化財に関する企画は文系から理系まで幅広い領域の研究者が参加する。そのため、用語など統一のできない場合が多い。統一ができない語については、筆者の原文を尊重する方針をとっている。
3. 本書の企画・編集は科学研究費補助金「鉛同位体比法を用いた東アジア世界における金属流通に関する歴史的研究」(2009～2011年度課題番号21200028)の代表平尾良光(別府大学客員教授)、分担者飯沼賢司(別府大学教授)、連携研究者村井章介(立正大学教授)が担当し、全体の編集総括は飯沼が行った。

あ と が き

本書は文部科学省の科学研究費補助金新学術領域研究（課題提案型）「鉛同位体比法を用いた東アジア世界における金属の流通に関する歴史的研究」（2009～11年、研究代表平尾良光）の成果を基盤とし、その後の研究を含めて、別府大学文化財研究所企画シリーズ③として出版することになりました。

これまで、シリーズ①の「経筒が語る中世の世界」では経筒を中心とした平安時代から鎌倉時代における金属材料の流れを解明し、シリーズ②の「キリシタン大名の考古学」では中世末期の大航海時代までの材料の流れを模索してきました。そして今回のシリーズ③では「大航海時代の日本と金属交易」として、①②の研究成果を踏まえ、平安時代から江戸時代までの東アジア世界の交易を金属に着目し実証しようと試みました。

これまでの歴史観では、金属（銅と鉄）は弥生時代に大陸から日本列島に導入され、古墳時代末期に生産が始まり、それ以降、どの時代においても列島内で十分に生産され、利用することができたという先入観にとらわれています。しかしながら、近年の考古学的な発掘により平安時代から戦国時代の資料から得られた事実が実証材料として利用できるほど蓄積された結果、新しい考え方が次々に生まれてきています。さらに、これら資料に関する自然科学的な検証から、平安時代末期以降、鎌倉時代には日本の銅生産は激減し、中国産材料で賄われて室町時代に復活したこと、そして戦国時代の鉄砲玉に利用された鉛はその半分が外国産であることなどがわかってきました。それを通じて、材料の交易が日本の発展にとって重要なポイントとなっており、それをもっともうまく利用できた武将が日本の覇権を握ったとも考えられるようになってきています。

本書では5つの主題を設定しました。

- 1）平安時代後期以降、日本における銅生産が底をついた時に、銅材料として中国銭がどのように利用されるようになったのかを、文献を通して再検討する。
- 2）東アジアから東南アジアにかけての海上交易が西洋からの進出と出会ったことが、必然的に鉄砲を日本へ届ける伏線として作用していたことを提示する。
- 3）自然科学的な面からは鉛同位体比法を応用して、外国からもたらされた鉛がどこで生産され、どのように日本の戦争で利用されたかを明らかにし、銀製錬のための材料としても鉛は利用価値が高かったことを示す。
- 4）交易でもたらされた鉛がキリスト教の宣教活動にどのように利用されていたかを示し、外国産鉛の流入に宣教師が大きな役割を果たしていたことを明らかにする。
- 5）鉄砲に加えて戦略上重要な役割を果たした大砲が、東アジアにおいてどのように流通していたかを考古学的に明らかにする。

また、トピックスとしていくつかの項目をとりあげ、報告書では参加いただけなかった

方々に、コラムのかたちで寄稿いただきました。1)～5)およびコラムで示された個々の事実から、大航海時代における日本の交易の全体像が、その前提となる時期を含め、浮かび上がってくるはずです。なお、巻末には日本の戦国時代に関連する鉛同位体比の測定値の資料を載せました。これらの値を用いて自分で図を描き、比較して考えてみようとする方々がおられれば望外の幸せです。データは決して嘘をつきません。

本書の内容が皆様の興味を引き出して、さらなる研究の進展の契機となることを期待しております。最後に本書の発刊にご尽力いただいた思文閣出版、とくに編集の労をとっていただいた田中峰人氏に感謝の意を表します。

平成26年9月

平尾良光（別府大学客員教授）

飯沼賢司（別府大学教授）

村井章介（立正大学教授）

執筆者紹介(掲載順, *は編者)

*飯沼 賢司 (いいぬま・けんじ)

1953年生。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。別府大学文学部教授・文学部長。
『環境歴史学とはなにか』(山川出版, 2004年), 『八幡神とはなにか』(角川ソフィア文庫, 角川学芸出版, 2014年),
『経筒が語る中世の世界』(編著, 思文閣出版, 2008年)。

黒田 明伸 (くろだ・あきのぶ)

1958年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(経済学)。東京大学東洋文化研究所教授。
『中華帝国の構造と世界経済』(名古屋大学出版会, 1994年), 『貨幣システムの世界史——「非対称性」をよむ——』
(増補新版, 岩波書店, 2014年), 'Anonymous Currencies or Named Debts?: Comparison of Currencies, Local Credits and Units of Account between China, Japan and England in the Pre-industrial Era', *Socio Economic Review* 11-1, 2013.

*村井 章介 (むらい・しょうすけ)

1949年生。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。立正大学文学部教授。
『日本中世境界史論』(岩波書店, 2013年), 『日本中世の異文化接触』(東京大学出版会, 2013年), 『中世史料との対話』(吉川弘文館, 2014年)。

稗田 優生 (ひえだ・ゆうき)

1985年生。別府大学大学院文学研究科文化財学専攻博士後期課程満了。大分県立歴史博物館学芸員。
「江戸城の石垣における石材の産地推定」(『平尾良光先生古稀記念論集 文化財学へのいざない』2013年), 「大分県の宇佐神宮が所蔵する能面の彩色に関する科学的調査」(『大分県立歴史博物館研究紀要』15号, 2014年)。

魯 禔玟 (の・じひょん)

1980年生。別府大学大学院文学研究科文化財学専攻博士後期課程修了。韓国国立中央博物館保存科学部学芸研究士。
「ガラス材料の産地同定分析からみた日韓古代交流」(共著, 『季刊考古学』13号, 2010年), "Lead Isotope Ratios and Chemical Compositions of Christian Medals in the Museu Nacional d'Art de Catalunya (Barcelona, Spain)", (coauthors, *Junshin Journal of Grants-in-Aid for Scientific Research*, No.1, 2012), "Chemical Composition and Lead Isotope Ratios of Bronze Artifacts Excavated in Cambodia and Thailand", (coauthors, *Water Civilization from Yangtze to Khmer Civilizations*, ed., Yoshinori Yasuda, Springer Publisher, 2013).

*平尾 良光 (ひらお・よしみつ)

1942年生。東京教育大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了。別府大学客員教授。
『古代青銅の流通と鑄造』(編著, 鶴山堂, 1999年), 『古代東アジア青銅の流通』(編著, 鶴山堂, 2001年), 『経筒が語る中世の世界』(共編著, 思文閣出版, 2008年)。

岡 美穂子 (おか・みほこ)

1974年生。京都大学大学院人間環境学研究科博士後期課程修了。博士(人間環境学)。東京大学史料編纂所助教。
『商人と宣教師——南蛮貿易の世界——』(東京大学出版会, 2010年), 『海からみた歴史——シリーズ東アジア海域に漕ぎ出す』第1巻(共著, 羽田正総編集, 東京大学出版会, 2012年), 『キリシタンと統一政権』(『岩波講座 日本歴史 第10巻近世I』岩波書店, 2013年)。

土屋 将史 (つちや・しょうじ)

1986年生。別府大学大学院文学研究科文化財学専攻博士前期課程修了。杵築市教育委員会嘱託職員。

Waiyapot Worakanok (ワイヤポット・ボラカノーク)

地質学専攻、タイ 工業省鉱物資源局鉱物資源課。

後藤 晃一 (ごとう・こういち)

1964年生。広島大学文学部史学科考古学専攻卒業。博士(文学)。大分県立歴史博物館主幹研究員。

「豊後府内出土のキリシタン遺物——府内型メダいの再考を中心として——」(『キリシタン大名の考古学』思文閣出版、2009年)、「キリシタン遺物の考古学的研究——布教期におけるキリシタン遺物流入のプロセス——」(学位論文、広島大学、2011年)、「キリシタン遺物の考古学的研究——布教期におけるキリシタン遺物(メダイ)の流入プロセス——」(『日本考古学』32号、2011年)。

川口 洋平 (かわぐち・ようへい)

1969年生。総合研究大学院大学日本歴史研究専攻にて学位取得。博士(文学)。長崎県世界遺産登録推進課係長。

『世界航路へ誘う港市 長崎・平戸』(新泉社、2007年)。

仲野 義文 (なかの・よしふみ)

1965年生。別府大学文学部史学科卒業。石見銀山資料館館長。

『街道の日本史 出雲と石見銀山街道』(共著、吉川弘文館、2005年)、『銀山社会の解明——近世石見銀山の経営と社会——』(清文堂、2009年)、『環境の日本史』4 (共著、吉川弘文館、2013年)。

上野 淳也 (うえの・じゅんや)

1973年生。別府大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(文学)。別府大学文学部史学・文化財学科准教授。

「豊後府内の成立過程——府中から府内へ——」(『キリシタン大名の考古学』思文閣出版、2009年)、「佛朗機砲の東アジアへの伝来について」(共著、『鉛同位体比法を用いた東アジア世界における金属の流通に関する歴史的研究』平成21年～23年度(2009～2011)科学研究費補助金 新学術領域研究(研究課題提案型)、別府大学文学部、2012年)、「尚古集成館所蔵佛朗機砲及び蛇砲の文化財科学的調査と歴史考古学的検討」(『平尾良光先生古稀記念論集 文化財学へのいざない』平尾良光先生古稀記念論集刊行会、2013年)。

田中 和彦 (たなか・かずひこ)

1959年生。フィリピン大学大学院社会科学・哲学研究科人類学専攻博士課程修了。Ph. D. 上智大学外国語学部非常勤講師。

「フィリピンの沈船遺跡と出土土器——15世紀中葉から16世紀末の資料を中心に——」(『水中考古学研究』創刊号、アジア水中考古学研究所、2005年)、「フィリピンの先史時代」(菊池誠一・阿部百里子編『海の道と考古学——インドシナ半島から日本へ——』高志書院、2010年)、「土器作り道具の持続と変化——フィリピン、ルソン島北部の事例から——」(『物質文化』93号、2013年)。

西田 京平 (にしだ・きょうへい)

1984年生。別府大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。別府大学文化財研究所非常勤研究員。

「南蛮貿易と金属材料」(共著、『キリシタン大名の考古学』思文閣出版、2009年)、「鉛同位体比を用いた産地推定の基礎」(共著、『史学論叢』41号、別府大学史学研究会、2009年)。

別府大学文化財研究所企画シリーズ③「ヒトとモノと環境が語る」

だいかうかい じ だい にほん きんぞくこうえき
大航海時代の日本と金属交易

2014(平成26)年10月10日発行

編 者

平尾良光・飯沼賢司・村井章介

発行者

田中 大

発行所

株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 電話 075(751)1781(代)

定価：本体3,500円(税別)

印刷・製本／図書印刷同朋舎

© Printed in Japan, 2014

ISBN978-4-7842-1768-7 C3021